

第 4 4 回
神 奈 川 県
美 術 展

T h e 4 4 t h K a n a g a w a A r t E x h i b i t i o n 2 0 0 8

第44回 神奈川県 美術展

The 44th Kanagawa Art Exhibition 2008

1 期展 [工芸・書・写真] 平成20年9月10日(水)-9月21日(日)

2 期展 [平面立体] 平成20年9月24日(水)-10月5日(日)

会 場 神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展 平成20年10月8日(水)-10月19日(日)

休館日: 10月14日(火), 15日(水)

会 場 厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県

共 催
(財)厚木市文化振興財団

協 賛
(財)神奈川県美術奨学会／(財)はまぎん産業文化振興財団／
ユニアート／(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会／
(株)ニコン

後 援
神奈川県市長会／神奈川県町村会／神奈川新聞社／NHK横浜放送局／
テレビ神奈川／FMヨコハマ

ごあいさつ



今年も、多くの皆様から創造性あふれる作品をご出品いただき、こうして神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一員として心からうれしく思います。

今年で44回目を迎えるこの美術展は、昭和40年に第1回展が開催されて以来、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品していただける美術展として、芸術家を志し日々研鑽を積まれている方から、日常生活の中で趣味として創作活動に取り組まれている方まで、多くの方々がその成果を発表する場として、県民の皆様に親しまれてまいりました。本美術展での入賞を機にさらに活躍の場を広げられた作家の方も多く、その水準の高さは、全国に誇ることができるものです。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門を合わせて1,800点もの応募作品の中から、会場には、厳正な審査を経て選ばれたいすれ劣らぬ秀作が展示されています。ご来場の皆様には、素晴らしい作品の数々を通して、その芸術性の高さを改めて認識していただけるものと思います。

県では、県民の皆様の文化芸術活動を支援していくとともに、地域の多様な文化資源を活用して個性豊かで活力に満ちた地域づくりにつなげていくため、「神奈川県文化芸術振興条例」を本年7月に施行したところです。今後は、この条例に基づき、さまざまな施策を総合的かつ計画的に推進してまいります。長い歴史を刻んできた本美術展が、今後とも、県民の皆様の文化芸術活動を一層活発にし、本県の文化芸術活動のさらなる振興に寄与していくことを願っています。

最後に、このたびご出品いただきました皆様の創作への熱意に深く敬意を表しますとともに、本美術展の開催にご尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成20年9月10日

神奈川県知事 松沢 成文

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第44回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に1,006人、1,800点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、374人、423点の作品が選ばれました。諸般の事情により本年から出品料を値上げさせていただきましたが、多くの方にご応募いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生を作りあげていく大切な時間であると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様、に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、ユニアート様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成20年9月10日

神奈川県美術展委員会委員長 原 範行

| 1期展

| 工艺 · 书 · 写真

受賞作品目録

工芸

大賞	吉井こころ	横浜市	月海一つきうみー	ガラス
準大賞	勝 孝	真鶴町	'08－ⅢⅡの象	金属
特選	留守 玲	小田原市	鑄鉄盛器	金工
特選	寺本沙香江	藤沢市	海の音	フェルト
美術奨学会賞	長谷川大祐	相模原市	海を照らす	金工
美術奨学会賞	金子ひとみ	横浜市	Tint	陶
大塚学院賞	田中 洋子	逗子市	行く秋	人形

書

大賞	茂住 菁邨	川崎市	称薦
準大賞	富岡 登	茅ヶ崎市	李白 上皇西巡南京歌
特選	高橋 麦宇	川崎市	孫賁詩 龍江夜泊
特選	小嶋 直子	伊勢原市	山里
美術奨学会賞	平出 節子	海老名市	白の風景
美術奨学会賞	松本 亘正	横須賀市	皮襲美詩
神奈川県文具事務用品団体連合会賞	中村 蒼碩	横浜市	秋江送別為戴友諒賦

写真

大賞	中山洋之助	横浜市	将棋三昧（3枚組）
準大賞	阪口 智聡	横浜市	記憶の町（3枚組）
特選	米山 悦朗	鎌倉市	野点（3枚組）
特選	加山 邦輔	川崎市	町角もよう
特選	栗栖佐保子	横浜市	遊び（3枚組）
美術奨学会賞	黒柳陽二郎	横浜市	N35° E139°
美術奨学会賞	原田 史生	鎌倉市	キオクの水（3枚組）
ニコン賞	奥谷 佳子	横浜市	トカゲの素足（3枚組）

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※大塚学院賞は、(学)大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

山口 迪子	蒲公英
砂山 憲子	春うらら
りなした陽子	Being A
石成 富榮	泥彩練上敦光扁壺
小竹 章子	清流
石川ヤイ子	蔦
杉山 紘美	夢想・・・・
田中 秀男	黒の魅惑
神武寺洲山	縄文譜二 ヤタガハスサンジツ 八咫鳥三耳壺
今林三恵子	区切られた空
大西 清治	備前緋襷面取壺
五明 永羽	連夢
務川 洋子	炆器彩文扁壺
西前 力	備前耳付水指
穴戸美智子	燃・飛翔
安楽 和彦	備前壺
東海林伸和	焼メめ角型花器
山口 摂華	切り絵文様
武智 千恵	扇
穴戸 紀子	春霞一入れ子角皿（3枚組）
塚田 真弘	あかね空
安達善次郎	窯変徳利花入
大野 澄子	小花によせて
山本 裕子	流流
藤永 志光	織部長方皿
本田 和子	waveの交点
石田 貴子	悠
三浦 静香	しずむ
平野 実	蛭
菅原 明子	髪・兎・蔦（3枚組）
神田みゆき	KU-MO・纏～流露～
大原 乾資	麻布藍の板締染
栗原 未久	ドロップス
小山 純子	ヘキ トラフ 碧落
藤森 京子	日々
望月すみ子	オブジェ 月下美人
宮崎 純子	薫りたつ
大塚 国男	過去と未来のはざままでⅡ
高橋 英昭	FLOWER（3個組）
亀井 富子	ツカ トラフ ノ シラベ 若草の旋律Ⅰ－A

瀬戸亜希子	「背」
古賀 典江	花器「春の田に水の満ちれば」
近藤 純子	流れる
高津潤一郎	モユル タイヨウ
高橋 悟	うのふ釉掛分線文鉢
門田 眞幸	コンポート（lagoon in the shell）
花見 昌道	萌ゆる・る
峯尾 菜美	RISE（3個組）
藤井 正弘	萌芽
菊地 妙子	花源郷
深野 怜	染付菊花文皿
井上 恵介	樹皮紋灰釉広口壺
藤原 昶	山が紅葉 もみぢ
荒木 貞年	雲翔
高田 健市	野鳥文組皿（5枚組）
山内 茂夫	玄武・'08-Ⅱ
村田 真樹	GATE-Ⅲ
鶴岡 弘	渚の音
梅田 千晶	結文様漆革器-Ⅰ
吉原 和司	流紋花入
山崎 直子	ア・Saanかなっ?!ぜ口8
岡崎まりこ	夏の神話
植草 稔	古代幻想
高崎 麻美	悠
加藤 祥代	パート・ド・ヴェール 水差し（夕暮れの秋 夕暮れ ）
青山 恵	呼吸
角田 智子	爽籟（そうらい）
福田 典子	華
岩脇 陽子	クローバー
塩谷奈津紀	はかなくも確かな時間
田上 憲一	山里
高橋 富子	落日に向いて
宮内 香織	広口壺ー古代への誘いー
土居 陽子	卵
季 徳實	breath
松岡 英恵	鉄釉掛分大鉢A
加茂 道子	うずまき紋花器
山本 朋子	変奏曲
鎌田 知幸	水指 瀧

書

日吉	青溟	傲羲皇
井上	春苑	淮南子、道応訓
石川	恵仙	日出づる
中村	霽澄	秋のわが宿
岡本	光草	草の穂
高山	畦亭	和歌四首
川上	麗有	杜子美詩
相沢	不逸	篆刻
花園	睦子	三十六歌仙
水川	芳竹	加護
松永	光鳳	方丈記より
善入	正英	眼處聞聲
奥野	知行	刻舟求剣
大野	博	進徳修道
安藤	憲翠	山家集
武藤	和雄	丹石心
國峯	正美	寧靜致遠
黒木	喬	楽観其深
秋山	克彦	清虚静泰
越智	麗川	錢謙益詩「舟中」
峯尾	宏子	松風の音のみならず石走る水にも秋はありけるものを
小松	公子	いつしかと
棧敷	瑞櫻	月影
棧敷	東煌	秋の夕暮
大場	法翠	霓裳羽衣の舞
塚本	竹霞	西行 秋の露
吉成	慶雅	秋
小泉	嵐貞	白鳥は
長尾	雪永	霍公鳥の歌
加藤	心圓	天の川
豊田	紫英	中務集 臨書
柘植	溪如	和歌三首
有吉	趣果	虎邱玉蘭盛開艤舟往觀觀重過孫武帝祠舊寓悽然成詠
藤原	紫翠	撫子
富岡	真華	詩経・邶風（泉水）
山田	栄恵	和歌三首
三谷	嶽雨	李白詩 送儲邕之武昌
黒川	鶴翠	李頎詩
二瓶	祥舟	揖雲橋
小磯	栄芳	王維詩

中澤	春雪	和歌二首
中山	壽香	感懷
柿沼	柏苑	月夜臺上聴友人彈琴
橋本	紫柳	感遇
深川	春汀	伝西行筆中務集
鶴岡	慎舟	夜雨偕友人進舟雲門
杉村	莊雲	胡奎詩
西川	寿泉	花
二瓶	香苑	遣興
長谷川	清陽	支硎山再餞文交木太守
渡部	祥優	王沂詩
岡田	珠美	忍ぶれど
荒川	涼舟	日暮進帆富春山
林	鶴芳	蘇東坡詩
横山	聖水	阻雨望醴泉寺用徐昌穀韻
筒井	節子	古今集
森崎	愛芳	劉崧詩
中村	清園	詠淳化里
上村	泊舟	與楊子完歩浣紗溪梁有懷西施之郷
四季	茜歩	亀遊
木下	清華	よもすがら
佐藤	青香	貫之集より
菅原	象雲	曹全碑（部分）臨書
田辺	芳雪	山家集より
青木	富美子	鏡澄窓月
上原	青襟	庭草に
西山	青香	さまざまの…2 首
山本	清子	落椿
石井	久美	秋色のかえり道
森田	新菜	variゆく北京
中山	政子	山里に春がきて
松田	紀子	耀く刻を求めて
青木	湘堂	蛙埜寧の詩 青春
田中	公彦	光の帯遙か（栃木郁子詩）
小林	千幸	バルト海の国へ 高梨好夫詩
馬場	虹苑	石川啄木の詩 一握の砂
上野	春海	微笑（柳澤晴美の詩）
廣川	心齋	井上靖の詩 野分けより
本間	琴秀	雞 島崎藤村詩
相馬	澄月	春の歌 島崎藤村詩

谷内 秀翠	茨木のり子の詩 鶴
岸 秀泉	古屋恵美子の詩 星のない東京
小野寺悦子	春動く
堤 智子	幽かな轢音
大木 明子	水のない海
鈴木 玉恵	冬の奥能登鉄道 見付拓詩
三根喜美子	短歌 啄木のうた
池田 莊春	寄王汝賓
片岡 嵐山	讀山海經詩
牛山 香流	山月記
武田 瞳処	張喬詩
前橋 成元	杜甫詩 蜀相
神藤 莊松	晩歩
西澤 蒼海	高棟詩
村上 湖翠	故里
武 啓茜	春のその
佐々木永隆	白露
成田 紫鶯	秋
武田 秋陽	朝日の光
關 恵峰	歸園田居（陶淵明詩）
浅見 玲湖	長安古意
阿部 馨月	浜風
小林 堯霞	和陶飲酒
神山 紅雲	白樂天詩 長恨歌
松尾 右翠	長安春望
井澤 洋高	杜審言詩
亀村 游石	杜甫詩
塚田 濤石	杜甫詩 登兗州城樓
土屋 景暉	黃淳耀詩
新 景園	白樂天詩
猪俣貴美枝	李東陽詩
根岸多江子	邵長蘅詩
藤野 菁浦	蔣士銓詩
安地 翠石	沈謙詩
田草川雅子	黒髪山
田辺 翠香	牡丹の花
坂東由美子	一茶の句
河又世津子	あをぎりの
塩澤 鷺州	つたの花
片山 裕子	女郎花

玉井真知子	百人一首抄
向井美佐子	春の訪れ

写真

小柳 朝明	淑女達の出迎え
岡本 一	闘争
野沢 敏晃	オールド・ボーイ
新井 証	影遊び
元上 徹夫	うまい？
大和俊一朗	大好き!!
佐藤 芳春	あさげのとき
五明 永羽	里に帰る
三崎 陽久	パフォーマンス
渡辺 脩子	願かけ
大西 紘昭	チャンピオン
上原 勝夫	生きる
立田 幸生	北の遺景
米山 好人	ノスタルジー
高橋 洋子	輪立ち
土屋 能大	アレキサンダー軍の末裔
岩崎 泰治	三人三様
藤本 寿春	全面凍結
吉田 喜久	ボスと少年
清水 治弘	没頭
高橋 春生	風雪に耐えて
大湖 淳一	好奇心
神谷 洋子	夜明けの出会い
大竹 時義	飽食
鯉登 勝彦	秘密基地へ出発進行
下井 良一	「もつれないようにね！」
谷田 梗歌	天界悠々
桐谷 慶明	退屈の時
笹尾 敏子	旋律
竹ノ内多恵子	しあわせ色の丘にて
大久保武人	パパアー
福谷 敏明	魚のハロイン
三浦 房子	木漏れ日の来訪者
渡部 政典	沐浴
米田 繁男	路傍の郷愁
菊地原俊二	密会（2枚組）
羽鳥 博隆	火と土が会おう時（2枚組）
古賀 盛嗣	今を忘れないで（2枚組）
原田 健兒	花折々（3枚組）
寺川 仁	祭り本番前（3枚組）

大木伊都子	風葬（3枚組）
岡田 千夏	こまわり（3枚組）
今井 清興	語りべ（3枚組）
安部きよ子	野のささやき（3枚組）
多田 正司	不安な町（3枚組）
根本 紀男	生活の殻（3枚組）
小田柿雅彦	日々閉店（3枚組）
愛内 晶子	華のワルツ（3枚組）
小黒 宏史	シャボンだま（3枚組）
田中 洋一	自然のいたずら（3枚組）
武藤 安弘	光景（3枚組）
大久保忠宏	或る虚構（3枚組）
商 家訓	朽ちても尚…。(3枚組)
柴山 洋	素的なリリー（3枚組）
福居 寛美	愛 Love 遊-Love You Forever- (3枚組)

工芸

工芸部門は185名215点の応募に対して入選が86点、うち7点が受賞した。昨年の208名257点に比べて応募数は若干減じたが、学生を含む若手の作品に光るものが多くみられ、賞候補として論議されたものも少なくない。残念ながら本数に限りがあるため、それらすべてに賞を贈ることはかなわなかったが、県展の今後に期待が持てる傾向であった。

大賞は吉井こころの「月海一つきうみー」に贈られた。鑄造によるガラス作品で、長円を半分に切った面を覗くと、都市にも似た幾何学的な形状が浮き沈みしているかにみえ、透明から濃藍までのグラデーションが幻視感を高めている。徐冷時に生じたヒビも、独特の雰囲気づくりに役立った。一方、ボディを立てたことで光が十分に取り入れられているのだが、側面に回ると、構造が視覚効果のための「装置」にみえてしまうのが惜しい。作者の実力であれば、次作以降は、全方位を意識した構造体へのチャレンジも期待できるだろう。

準大賞は勝孝「'08-ⅢⅡの象」で、鉄とステンレス2種の金属素材を使用。色彩とテクスチャーのそれぞれに製造工程による痕跡を留めていて、それらの界域はおぼろである。ボディと表面との区分も同様で、そのことが変容過程にあるようなフォルムに力を与えている。

特選は留守玲「鑄鉄盛器」と寺本沙香江「海の音」の2点。前者は溶断した鉄片を溶接により構築していった作品。フォルムの筋道は素材と作者の内面が制作工程のなかで反応しながら見出していくが、本作では「盛器」という外在の秩序に着地点を求めた。比較的小品ではあるが、テクスチャーとフォルムが一体となって、高い完

成度を示している。後者はフェルトによる制作。フェルトは羊毛などの毛が絡み合う性質を利用し、縮絨の過程で自由な造形を楽しめる。本作はほとんどが平面構成であるが、円形のなかから白いポコポコとしたかたちが零れ出ているのは、製造の特質を比喩的に表わしたものか。グラデーションの状態などからもフェルトの製造技術に習熟していることが窺われるので、異素材の使用のような作者の恣意的な選択が、作品上の必然と化してみせる構想力を求めたい。

金子ひとみ「Tint」、長谷川大祐「海を照らす」が美術奨学会賞。「Tint」は白、水色、紫、褐色の多角形で鉢形を埋め尽くした。シンプルながら、鉢の内外を多角形が巧みにつなぎ、印象に残る1点となった。「海を照らす」は有機的なフォルムが内側の空間を意識させて注目を集めた。上の金属部分に十分な可能性を感じるので、木彫の指は、あるいは無機的な造形にまとめてもよかったかもしれない。大塚学院賞は田中洋子「行く秋」。ポーズ、表情、配色等、全体にバランスよく、また細部まで丁寧な仕事が好印象であった。高橋悟「うのふ釉掛分線文鉢」はフォルム、焼成、釉薬の効果ともに優れ、また、近藤純子「流れる」は板締めをした白布に藍の線条文がリズムよく並んでいた。僅差で賞は逃したものの、高く評価された2点である。今回の受賞作はいわゆる「オブジェ」に分類される作風のものが集まったが、過去から伝わる形式や技法のなかにも、表現の豊さが満ちていることを改めて考えさせられた。

(今井陽子)

書

本年の審査では冒頭、県展委員会からの意向として、入選数を昨年水準より二割減となる様にとのことが伝えられ、審査の始まりから、緊張が倍化され、精選の責を負わされることとなりました。落選のある展覧会では、出品には、それなりの覚悟が必要となり、反面、入選・入賞の評価は高まることですが、作品に接しますと一点でも多く陳列し、難関を通った喜びを味わっていただきたいと、苦しい選択となります。その結果は入選率52パーセントの厳選となりました。(出品数248点、入選数129点)

入賞作品の傾向としては、線に勁さをもった漢字作品が印象を強くし、これまで、かな作品に秀作があったのが、例年に比してやや、寂しい感を持ち、昨年から参加しました篆刻作品は、平均的な水準を保っていましたが、群を抜く作に接することがなく残念でした。

入賞作品を抜粋しますと、茂住菁邨氏の篆書二字「称薦」の作は、墨痕の鮮やかさ、線の勁さ、運筆の闊達を如何なく発揮した、構成の充実感が強い印象を放っています。富岡登氏の篆書三行の作は、文字の源初の造型を現代的表現として、結体の変化、墨量の多少に巧みな構成力を保ち、緻密な緊張感を持続しています。高橋麦宇氏、行草横額での作は自在な運筆をもって、大きく構え

た字形と多彩な線の変化に、技法の妙を尽くして、強く眼を惹く作です。小嶋直子氏はかなを大字とした横額。和歌二首をもって、結体の妙、味わいある線と行の流れがよく調和し、見る愉しみを誘う作です。漢字の高橋さんの表現に通ずる型かと見ます。平出節子氏、読める書として、広い支持を得ている漢字かな交じりの表現です。墨色鮮やかな大きな量感に、温か味、親しさを感じさせ、字粒の変化、余白の処理が明るい紙面を構成し、調和を保っています。松本亘正氏の楷書作品は、謹厳な楷書の居住いを崩し、新しい趣きを盛り、技法を表に見せぬ巧みさが味わいを醸して、良寛を想わせる愉しさを感じます。中村起世氏、七言律詩を縦に四行の漢字作品として、一般的な構成です。字粒、墨量の変化を強調して、軟らか味のある線質をもって、布置の安定を図り、成功しています。

入選作品は夫々高い水準を示していますが注目される作を全て抽出できなかったことは残念なことです。希まれることは、更に広い範囲の方々の参加を得まして、出品点数の増加です。神奈川県美術展も四十四回の歴史を重ねた展覧会です。充実した展示内容といたし、その存在感を高めたものと次回展に期待します。

(川口流坡)

写真

今回の応募状況は昨年をかなり下回った。昨年は応募点数1,034点（応募人数297人）で、はじめて四ケタの点数に達したが、今回は916点（264人）で、前々回の42回の912点（271人）にほぼ並び、今後も下降傾向を伴ってくるとすれば、いくらか低調気味な内容面とあいまって県展へのさらなる積極的な参加を呼びかけるなんらかの方策を講ずる必要があるのかもしれない。

総括的な概評で言えば、今回もまた目を見はるような出色の作品はほとんど見かけることができず、近一年来くり返されてきている花鳥風月調の風景や海外ツアーものなどが多く、技巧をこらすアート志向が目立った。あえていえば、形や色彩の在り様に関心が向きすぎていて、極端に人間の姿が見えてこない。つまり、暮らし感覚が希薄で、生活の匂いにとぼしい。なぜ横浜という絶妙の写真環境がいきいきと描き出されないのか不思議なほどである。

そんな中でも、上位を占めた作品群は、それぞれ主張を明確にした表現力量を備えており、主題として特筆できるものではないにしても、レベルとして評価に値するというものであったろう。

大賞の中山洋之助「将棋三昧（3枚組）」は、満票でトップに推されただけあって、語りかけが巧みだ。秋たけなわ、公園の一隅で興じている将棋にまわりがあれこれ口をはさんで、“縁台将棋”ならぬ“公園将棋”の在り様がごくしげんに描き出されて楽しい。少しはなれて別の対決もあれば、そばで昼寝する人もいる。目下失業中の職安通いの人たちか、就業中の昼休みでもあろうか。

きびしい世相の中のささやかな憩いのひとときの現実を巧みに見せたイメージのふくらむ三枚組。

準大賞の阪口智聡「記憶の町（3枚組）」は、名画の宣伝看板を飾った街、おそらく東京・青梅だろう。ブラシ効果で遠い日を寸景の中にうかび上がらせて効果的。

特選の米山悦朗「野点（3枚組）」、加山邦輔「町角もよう」、栗栖佐保子「遊び（3枚組）」の三作品は、それぞれ対象把握があざやかで印象深い。

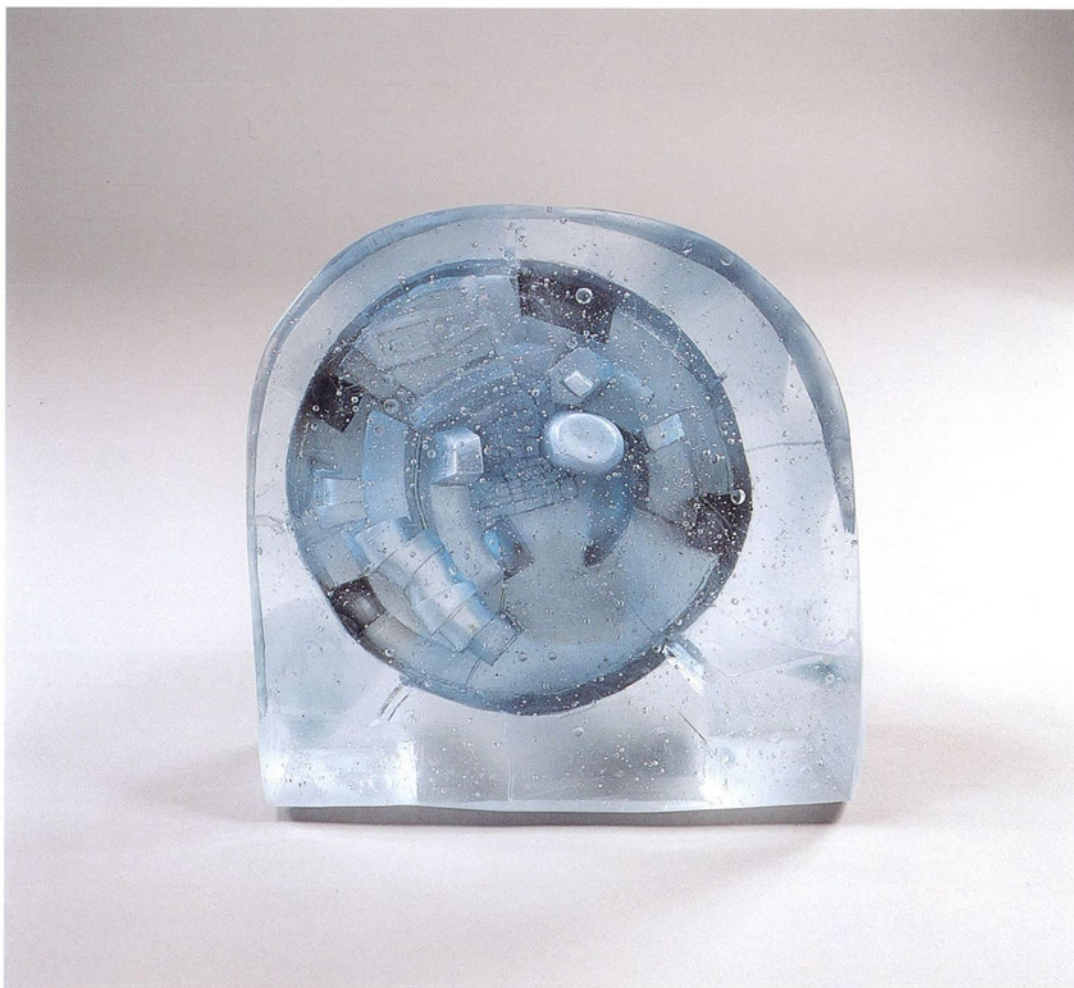
「野点」は、野外の茶会で外国人を招いてのシーンだろうが、近來ますます深まる日本の伝統文化の一端をするどく切り撮り、余韻を残す。主人の繊細な手つきと客人の野太い手と鋭い眼眸のコントラストが冴える。

「町角もよう」は、祭り囃子で浮き立つ町角で久しぶりに会ったのか、少女二人の浴衣姿。下町情緒のにじむ巧まざる一枚。

「遊び」は、球体状の中に入って、ぶら下がった大きな球と遊ぶ幼児。愛しいお孫さんか。好奇心の挙動のなかになんとも愛らしい表情をとらえた巧みな構成力量。

美術奨学会賞は二点。黒柳陽二郎「N35° E139°」は、どうやら水泳事故防止の立哨らしい。この一枚で炎天下の男たちの精勤ぶりがリアルに。早い雲の動きもおさえて盛夏の表現として意表をつく。タイトルもユニークで、伊豆半島の伊東と伊豆長岡の間あたりか。原田史生「キオクの水（3枚組）」は、セクシュアルな連想がとめどなくわいてくるような異色作。遠い記憶にたどりつきたい欲望の水滴か。

（岡井耀毅）



大賞 月海一つきうみー：吉井こころ

ガラス、キルンキャスト 12×39×38cm 25Kg

〔略歴〕

1973 東京生まれ
1997 Frauenau (Germany) 工房にて制作
1998 多摩美術大学美術学部デザイン科ガラスコース卒業
1998～2001 照明器具デザインに従事

〔展覧会歴〕

1994 グループ展 4CE (Galley KEYAKI)
1995 グループ展 life (ギャラリー KOWA)
1997 Frauenau (Germany)
福島ガラスプロジェクト
1998 グループ展 芝プロジェクト (青山スパイラルホール)
1999 暮らしの中のあかり展 (OZONE)
2007 第43回神奈川県美術展入選
クリスマスオブジェ展 (glass gallery KARANIS)
2008 テーブルオブジェ展 (glass gallery KARANIS)
個展 (glass hopper gallery)



準大賞 '08-Ⅲ IIの象：勝 孝

鉄、ステンレス 40×100×106cm 50Kg

〔略歴〕

1953 神奈川県に生まれる

1981 東京藝術大学大学院 修了

〔現在〕

財日本金属造型振興会 理事

日展 会友

現代工芸美術家協会 評議員

湘南工科大学 非常勤講師

〔出品歴・受賞歴〕

日本金属造型作家展 日独金属造型作家展 (Cismar, Berlin)

日展 特選 '89 '06

日本現代工芸美術展工芸賞 '82 本会員賞'86 '87 審査員 '88 '98 '04 '07

甲府市野外彫刻展 甲府市ロータリークラブ賞

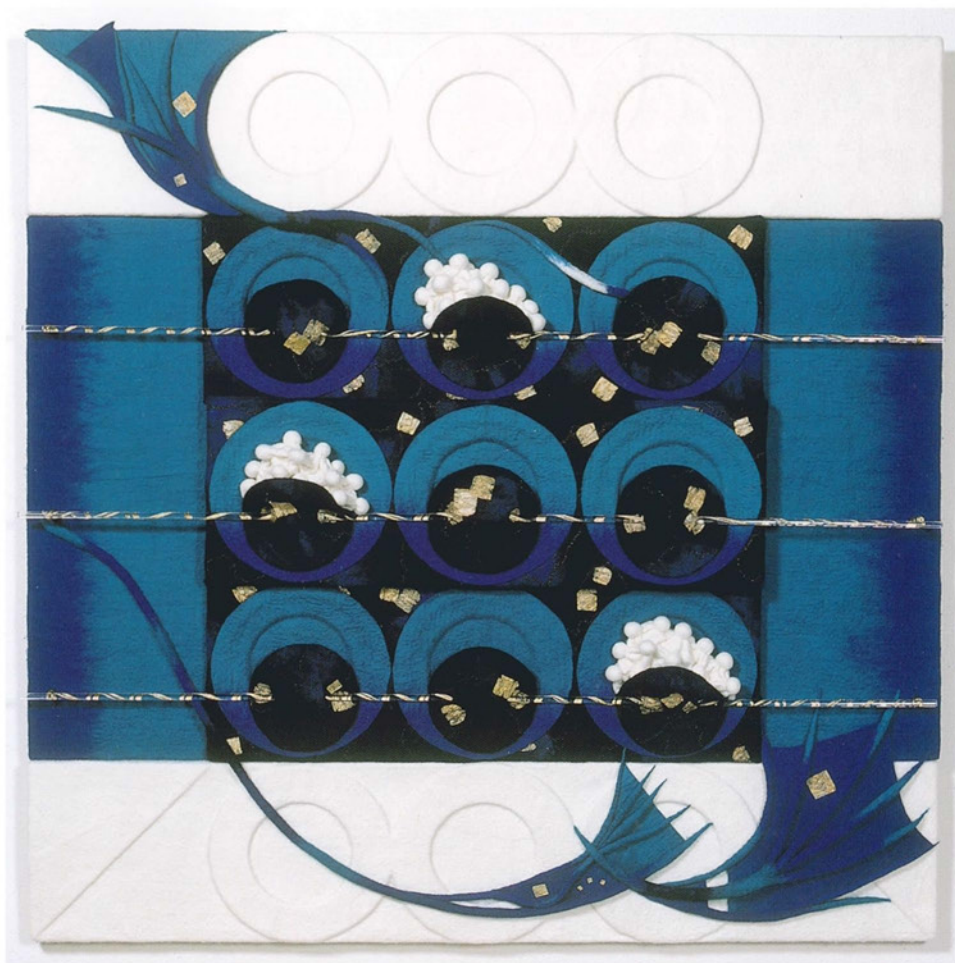
〔野外作品設置〕

吉野谷村

甲府市

横須賀市 (M氏邸)

那須市 (T氏邸)



特選 海の声：寺本 沙香江

創作フェルト 150×150cm 20Kg



特選 錆鉄盛器：留守 玲

金工 鉄 16×55×高さ12cm 1Kg



美術奨学会賞 Tint : 金子 ひとみ

陶 55×62×高さ17cm 8Kg



美術奨学会賞 海を照らす : 長谷川 大祐

金工 銅、桧 100×40×高さ60cm 3 Kg



大塚学院賞 行く秋：田中 洋子

人形 木芯、桐塑 28.5cm



大賞 称薦：茂住 菁邨

91×121cm

〔略歴〕

1956 岐阜県飛騨市生まれ

日展会友

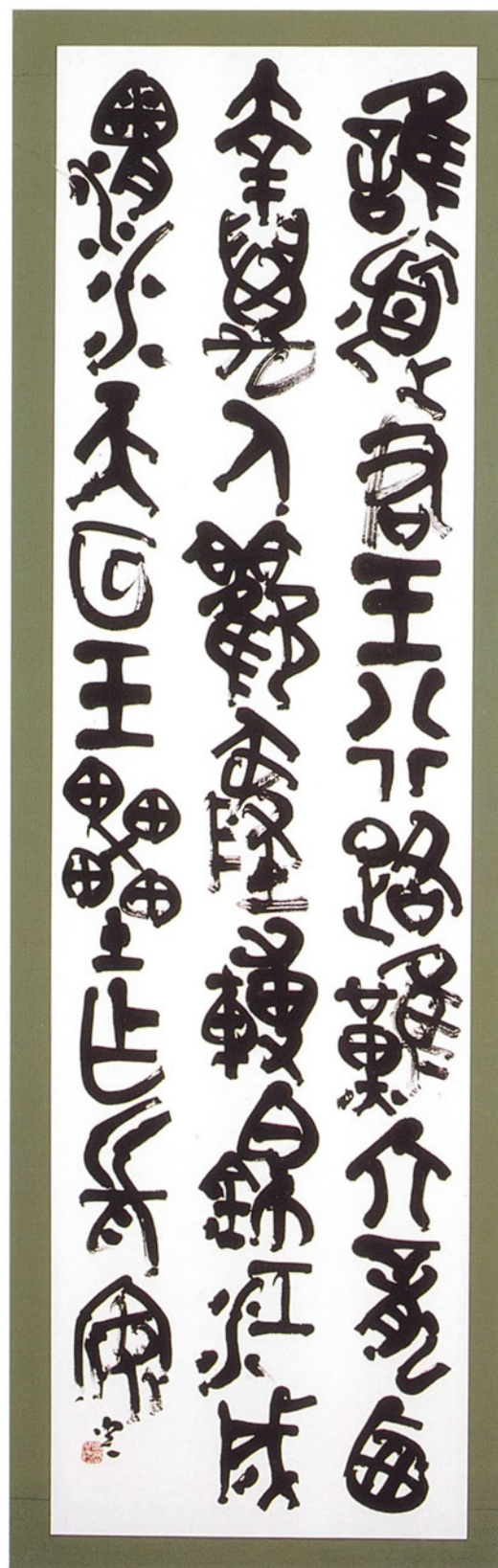
読売書法会理事

謙慎書道会常任理事

青山杉雨、成瀬映山、梅原清山に師事

〔受賞歴〕

第43回神奈川県美術展 美術奨学会賞



準大賞 李白「上皇西巡南京歌」：富岡 登

182×61cm

〔略歴〕

1952 神奈川県生まれ

読売書法会 幹事

謙慎書道会 理事

三鼎書道会 常任理事

石坂雅彦に師事



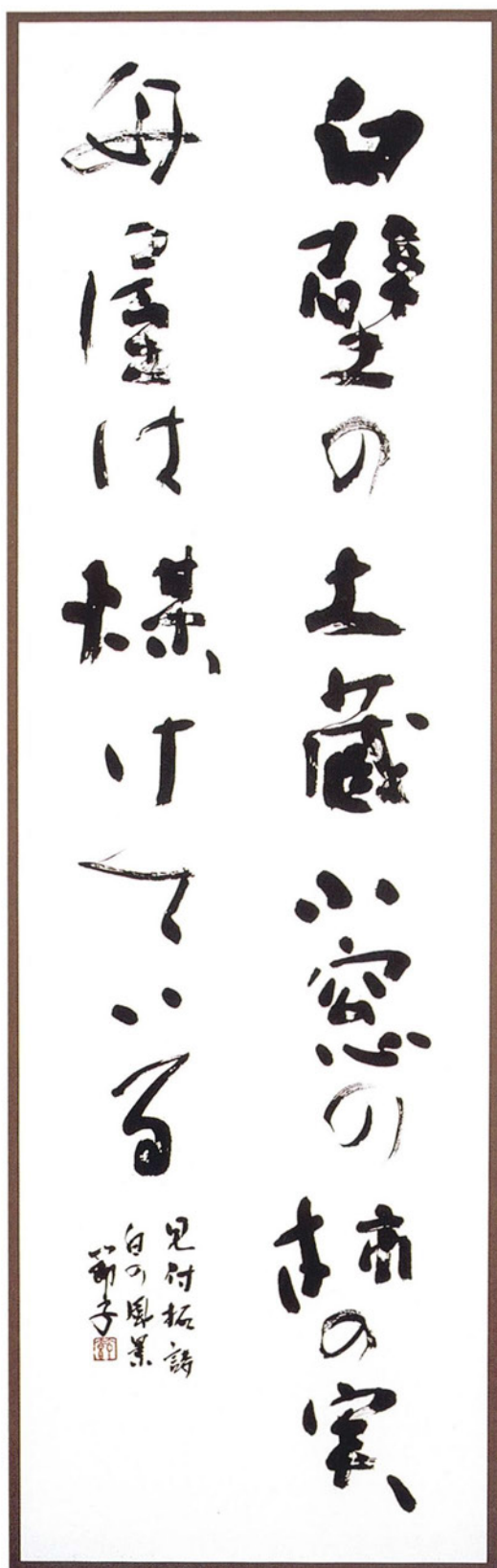
特選 孫冀詩「龍江夜泊」：高橋 麦宇

61×182cm



特選 山里：小嶋 直子

53×173cm



美術奨学会賞 白の風景：平出 節子

180×60cm



美術奨学会賞 皮襲美詩：松本 巨正

182×61cm

蕭蕭落葉早寒天
忽送社聲到耳邊
重客心驚歲月五湖鄉
夢入風煙青山紅樹還家路
綠水滄洲載酒船
夜半燈前對兒女白頭

重沽謫居手

須知愈病秋江送別為戴友諒賦

蒼碩書



神奈川県文具事務用品団体連合会賞
秋江送別為戴友諒賦：中村 蒼碩

182×61cm



大賞 将棋三昧（3枚組）：中山 洋之助

〔略歴〕

1931 横浜市生まれ
2004 写真どんぐりに入会
2007 ボンフォトクラブ結成
写真歴 16年

〔受賞歴〕

2006 第42回神奈川県美術展 美術奨学会賞
2007 第30回記念公募展 神報連理事長賞



準大賞 記憶の町（3枚組）：阪口 智聡

〔略歴〕

- 1958 東京都中野区生まれ
- 2005 国内外でピンホールカメラによるスナップ撮影を始める
- 2006 第42回神奈川県美術展入選

〔展覧会歴〕

- 2007 個展「記憶の空間」（Art Gallery 山手）

〔企画展・雑誌掲載〕

- 2007 『写真文化』（社団法人日本写真文化協会）
 - 10月号 表紙に写真掲載
 - 『日本フォトコンテスト』
 - 12月号 口絵作品として写真6点掲載
- 2008 『第2回横浜山手の坂道と風景展』（Art Gallery 山手）

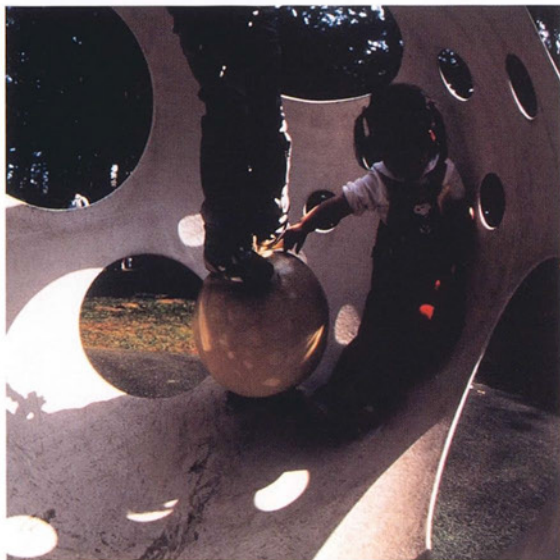




特選 野点（3枚組）：米山 悦朗



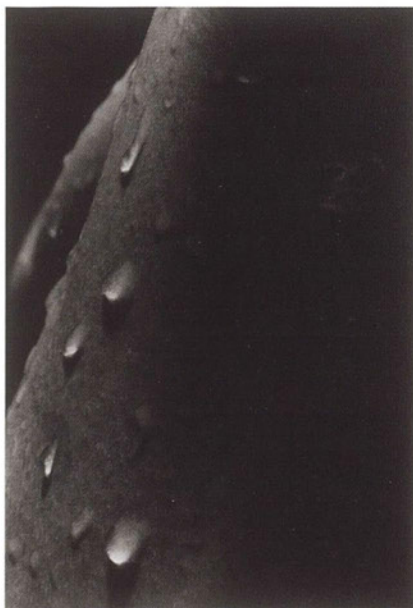
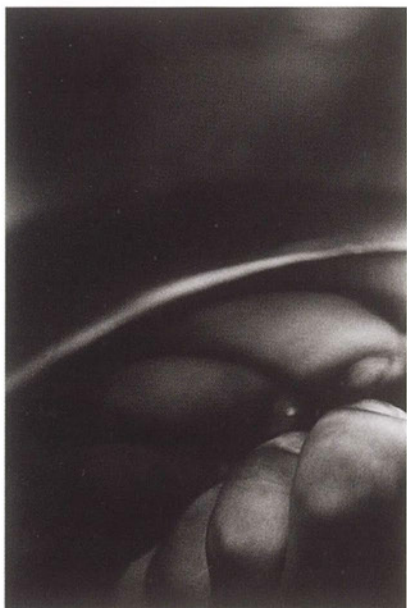
特選 町角もよう：加山 邦輔



特選 遊び (3枚組) : 栗栖 佐保子



美術奨学会賞 N35° E139° : 黒柳 陽二郎



美術奨学会賞 キオクの水（3枚組）：原田 史生



ニコン賞 トカゲの素足（3枚組）：奥谷 佳子

| 2期展

| 平面立体

受賞作品目録

平面立体

大賞	大石 麻央	横浜市	アダムとイヴ もしくは自分の愛し方	立体
準大賞	廣瀬 公美	相模原市	大爆発	平面
特選	堀井 寿乃	横須賀市	tangible emotion 4	立体
特選	大森さやか	相模原市	空へ求愛	平面
県議会議長賞	茅野のり子	横浜市	ゆげゆげもわーんもわーんⅡ	平面
県立近代美術館賞	TETTA (杉本聡子)	藤沢市	自仏画	平面
美術奨学会賞	山本 藍子	鎌倉市	いろいろいるけどね	平面
はまぎん財団賞	八木 厚紀	相模原市	静かなる崩壊	平面
ユニアート賞	池田 巳奈	相模原市	死地で生く	平面

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※ユニアート賞は、ユニアート(株式会社ユニリビング)から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※市区町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

石井いつ子	Being（Ⅱ）
佐藤 靖子	woman
大塚とみ子	響き
村上由紀子	時を刻んだ手紙Ⅰ
新田 雅秀	軌跡
上浦 佑太	system construction 0801
石渡 文	Sushi
原 真吾	車輪の下で
西尾 真代	室内風景 照明Ⅳ
しんぞう	鎌倉の木
金子健一郎	frozen fall
野堀佳代子	森を辿る
奥山加奈子	呼吸
関谷あゆみ	串刺す眼差し
前澤 妙子	記憶のちうちえⅠ
内藤 克子	2008刻Ⅰ
小藤 典子	割れ
門間 由佳	M氏の像
岡本ヒロシ	わ・ら・べ・は・み・た・り（Ⅲ）
進藤 裕代	大地Ⅰ
穂積 千幸	Tulipomania
齋藤洋由起	流転想魂
浜田 澄子	SANSUI（岩倉）
深谷 洋子	明日に
上林 礼和	ベネチアの夢
無学 忍円	無題
新恵美佐子	花
田嶋 佳子	ブルーハウス（むく）
箕輪 美幸	海
内山 徹	海の記憶
米倉 雄治	Favorite blue jeans
岩瀬 哲夫	幸福を招く猫
大小島真木	never forget
宮内 直子	S先生
原 汐莉	たれ目な関係
小口ウィリアムズ志伊菜	silence.
安 美子	惺惺・寂寂-08Ⅰ
建部ひろ子	想定外Ⅲ-2
三津 繁郎	無題
宮澤 麻貴	あのむこうには

石神まるこ	空色の部屋
小澤はるみ	Intimacy-4℃
横山 将二	曙光
野川 恭平	星産み
寺本有加里	ある、そこに。
安藤由香里	その時 僕は 雨の音を 聴いていた
嶋原 友香	Walking paradise～海風に誘われて～
大寺 博	Out in the shell
表 康子	Shave work
吉窪 茜	野葡萄
戸田みどり	Living Waters 生ける水Ⅳ
吉井 千恵	ある広がり
澤田 サチ	いづり流れゆく（Ⅱ）
鈴木 滋子	独り言
関 廸子	コンポジションⅠ
湯山 育美	平日
森 亮太	8 beat
片山知香子	うみのはは
武子 久美	現象・硝子
新倉佳奈子	泳韻
千葉 和雄	作品A はるのひ
宮嶋 結香	あるイメージ2
丸山 春佳	災異の神々
井上 洋介	誕生
鷺尾 圭介	sunset
加藤 浩	モドキ
長谷川ひかり	memoryⅢ
木村 真彦	'08快流Ⅳ
奥谷 敏彦	I . I . の首のある6つの情景（その3）
大城 勝	pw0803偶有的選択
葉山 幸恵	Untitled
木下 愛美	変若ゆく花
雄鹿 靖二	作品B
和田 彰	心は形をもとめ、形は心をすすめる

立体

舘山 拓人	解き放たれた幻影
向井はるか	playful
久 亜由美	びろりんちょ
菅原 隆彦	Colony'08
衣笠 朋子	a blessing ～恵み～（5個組）
田中 雅樹	どこかの部品
山口 洋子	Rose
鎌田 あや	わたしわたしわたしわたし ～なりたいわたし、ありたいわたし
山本 秀明	生痕2008
加賀美 鋭	みんなのものはぼくのもの
田中 晴子	drawing
高嶋 英男	親子
薄羽ことえ	treebird

審査講評

平面立体

出品料改定の影響もあってか応募数が前年比約15パーセント減となった平面立体部門の審査は2段階で行われた。まず、7人の審査委員が平面と立体それぞれの全作品を見て、挙手による得点の高い順に入選作品を選んだ。当落線上の作品については、平面と立体合わせて3回の再投票を行い、応募者ひとりひとりの熱意に応えるべく真剣な審査を経て、平面81点、立体15点を入選とした。複数出品の応募者については、高得点の作品1点を入選の対象としたが、これについては、なるべく多くの応募者の作品を展示したいという意見と、作品本位で評価すべきという意見があり、本部門では出品料を1点毎に設定していることも踏まえ、検討の余地があると思われる。

次に、入賞作品を決めたが、結論から言うと、高得点で入選した作品が、必ずしも賞を得てはいない。つまり、第一段階では、応募作品が入選に適っているかどうかで審査員は挙手したのであって、満点に近い作品はむしろ個性に欠けるように感じられた。これは審査員の一致した感想で、そのため、入賞の選定は入選作品の大部分を対象に投票で作品を絞り、議論を経て入賞作品を決定した。

大賞の大石麻央《アダムとイヴ もしくは自分の愛し方》は、尻尾のある裸の少女が左手に豚の仮面を持って立つ像であるが、羊毛という表面素材の軽い外見と、ほくろや左右の目のアンバランスといった細部が醸し出す妙な生々しさによって、審査会場でもひととき異彩を放っていた。大賞を与えるまでには議論があったが、その個性的な存在感と新しい感性に期待を込めて大賞を贈ることになった。

準大賞の廣瀬公美《大爆発》は、作品名の通り勢いのある作品だが、前述の審査過程で選外となった他の2点の作品と並べると一層迫力を感じる。特選の大森さやか《空への求愛》は柔らかなフォルムと色使いが魅力的であり、堀井寿乃《tangible emotion 4》は造形力が評価されたが、前回の入賞作品の方がインパクトが強いという意見もあった。美術奨励会賞の山本藍子《いろいろいけどね》は、複数の豚の姿を美しい花模様で満たした作品であるが、いかなる生き物にも個性があるということか。はまぎん財団賞の八木厚紀《静かなる崩壊》は、地球温暖化によって溶け出す氷河を描いたのだろうか。鉛筆による実に緻密な作品である。県議会議長賞の茅野のり子《ゆげゆげもわーんもわーんⅡ》は、鳥瞰された浴室の中の描き込まれた細部と、貼り付けられた実物の排水口の栓との差が面白い。ユニアート賞の池田巳奈《死地で生く》は描写力が評価された。県立近代美術館賞の杉本聡子《自仏像》は、仏の姿と矛盾する現代的なファッションと溶けたアイスパールが、作品名そのものに含まれる違和感を巧く表現している。

次点についても触れておく。平面の大小島真木《never forget》は、選外となった作品と共に、優れた構成力に対して作品のメッセージが解り難く、惜しくも受賞を逃した。立体の田中雅樹《どこかの部品》は小さなガラスの作品群であるが、白い台座が「部品」の繊細な輪郭を消してしまっていたのが残念である。ふたりの次の出品に期待したい。

(粕山昌夫)



大賞 アダムとイヴ もしくは自分の愛し方：大石 麻央

綿、はり金、羊毛、セメント 30×50×高さ162cm 5kg

〔略歴〕

1986 神奈川県に生まれる

2005 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科入学
現在在学中



準大賞 大爆発：廣瀬 公美

カンバス、油彩、板、紙 227.5×182cm

〔略歴〕

1986 徳島県生まれ
2008 女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業
女子美術大学大学院美術研究科美術専攻 修士課程在学中

〔受賞歴〕

2008 加藤成之記念賞
2008 女子美術大学美術館収蔵作品賞

〔展覧会歴〕

2008 グループ展「女子美術大学大学院 洋画研究領域作品展」ギャラリー青羅



特選 tangible emotion 4 : 堀井 寿乃

アクリル板、羊毛 100×160×215cm 55kg



特選 空へ求愛：大森 さやか

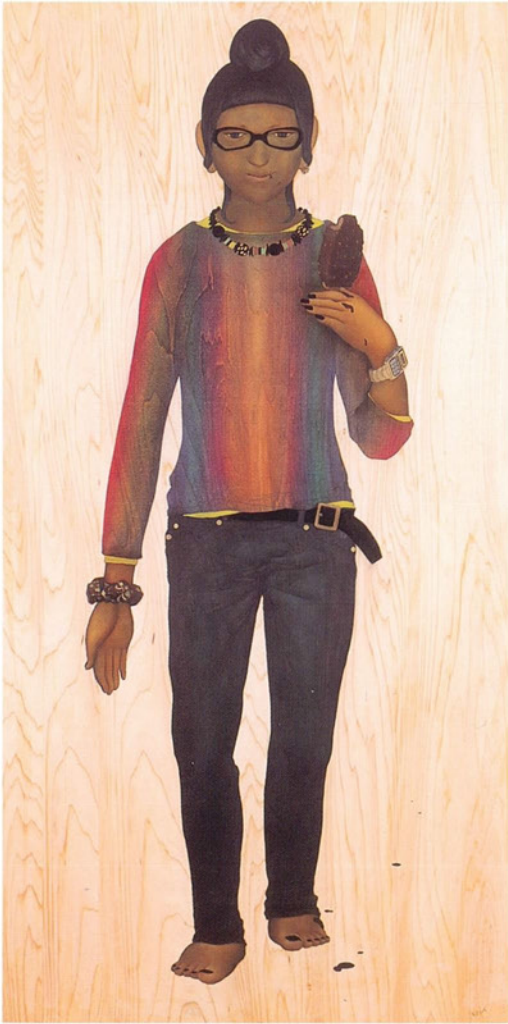
カンヴァス、アクリル 162×194cm



県議会議長賞

ゆげゆげもわーんもわーんⅡ：茅野 のり子

油彩、ミクストメディア 162×162cm



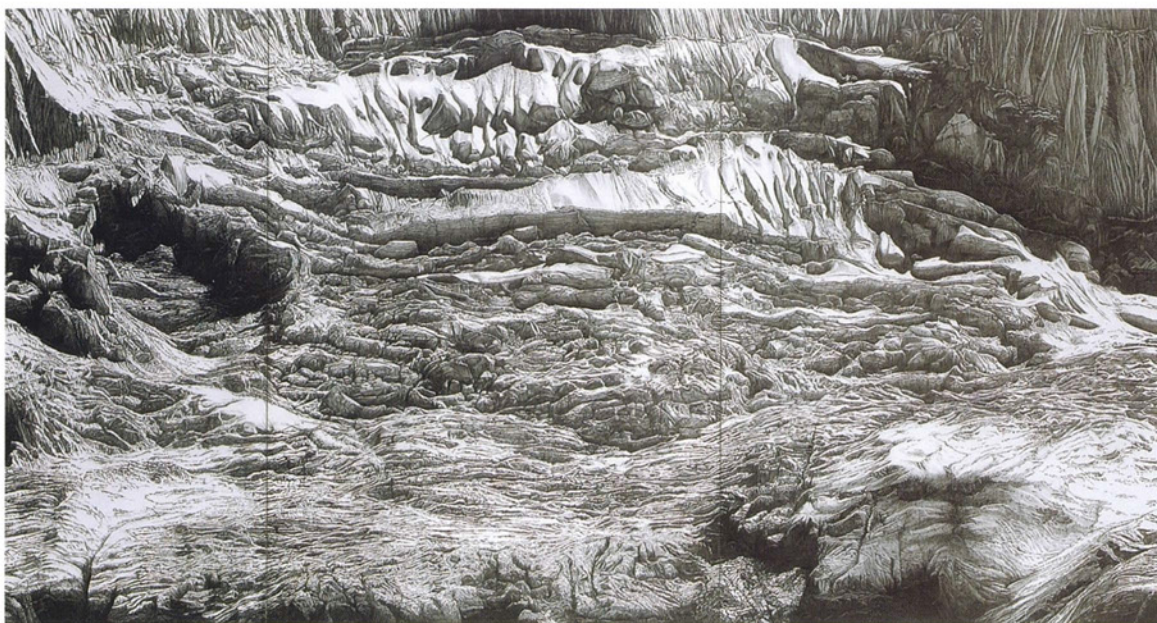
県立近代美術館賞
自伝画：TETTA（杉本 聡子）

シナベニヤ、油彩 160×80cm



美術奨学会賞 いろいろいるけどね：山本 藍子

麻紙、岩絵具、アクリル 227.3×181.8cm



はまぎん財団賞 静かなる崩壊：八木 厚紀

ケント紙、鉛筆 130×238cm



ユニアート賞
死地で生く：池田 巳奈

カンヴァス、油彩 182×227.5cm

出品点数一覧表

	平面	立体	2期展計	工芸	書	写真	1期展計	合計
人数	246人 (81)	63人 (15)	309人 (96)	185人 (86)	248人 (129)	264人 (63)	697人 (278)	1,006人 (374)
点数	356点 (81)	65点 (15)	421点 (96)	215点 (86)	248点 (129)	916点 (112)	1,379点 (327)	1,800点 (423)

※()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画	第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品I』洋画	第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第3回	41年度	垣内 治雄『坐る』彫刻	第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹鬚松影』書
第5回	44年度	山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『虚子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵩『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真	第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画	第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回	2年度	山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遥かなる亜熱帯』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-77』彫刻			
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形			
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋Ⅰ,Ⅱ』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書			

第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書	第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 栃木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I-V』写真
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第39回	15年度	井上 達也『植勢Ⅱ』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても……』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 暁雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2枚組)』写真
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域—群像Ⅰ』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネパール)』写真	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝眺北樓』書 商 家訓『路傍の草 (3枚組)』写真
第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真	第43回	19年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『MI! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第44回	20年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海—つきうみ—』工芸 茂住 菁邨『称薦』書 中山洋之助『将棋三昧 (3枚組)』写真
第35回	11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斉藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稲葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真			
第36回	12年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラバゴス)』写真			
第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女鐘私1.2.3. (NUDE)』写真			

第44回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成20年9月10日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 原 範行
副委員長 福江 裕幸

委員

平面立体

大矢十四彦 林 敬二 辰野登恵子 嶋 剛
原田 光 山梨 俊夫

工芸

今井 陽子 佐野登志子

書

川口 流坡 船本 芳雲

写真

村岡 秀男 山田 信次

審査員

平面立体

安齊 重男 内田めぐり 辰野登恵子 原田 光
林 敬二 三沢 厚彦 初山 昌夫

工芸

今井 陽子 佐野登志子 関井 一夫 高木 参平
前田 金彌 行吉志津枝 由水 常雄

書

石坂 雅彦 川口 流坡 栈敷 東石 西嶋 慎一
丹羽 蒼處 春山 右濤 柳 涛雪

写真

江成 常夫 岡井 耀毅 熊切 圭介 前田 利昭
村岡 秀男 山田 信次 和田 久士

プロのために、
プロの品揃えです。



 有隣堂

画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店文具館(4F・5F)…… TEL.(045) 261-1231

■厚木店(4F)…………… TEL.(046) 223-4111

■藤沢店(フジサワ名店ビル2F)…………… TEL.(0466) 26-1411

※藤沢店は書道用品のみ取り扱っております。

布の未来を創る

大屋由美子

第19回シルク博物館全国染織作品展 入選

『日照雨』



望月美里

ジャパンクリエーション2007 入選



資料・願書無料送呈

学校(授業)見学 平日随時受付

**学校説明会等
6～3月 各月1回実施**

◎入学願書受付

推薦入学 10月1日～1月31日

一般入学 11月1日～3月31日

◆ 学科構成 ◆

テキスタイルデザイン科 (昼2年)

工芸染織科 (昼2年)

友禅染色コース

伝統織物コース

プリンティングデザイン科 (夜2年)

ウィービングデザイン科 (夜2年)



大塚テキスタイルデザイン専門学校

(姉妹校)大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎ 03(3357)3671 FAX 03(3226)9745

URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp

ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k>

OTSUKA

たいせつなものをもっとたいせつに。

● 環境にやさしい印刷

環境マネジメントシステムの構築、ISO1401の認証により環境配慮の社内体制を確立した当社の「eco noge」。水なし印刷をはじめ、印刷の材料や方法をひとつひとつ、環境のやさしいものに替えていくなど、全社を挙げて環境にやさしい製品やサービスのご提供に取り組んでいます。



● 個人情報をもっとたいせつに扱う

コミュニケーションに関わるサービスを扱う企業として、個人情報保護は、社会的責任を果たす上でたいせつです。当社では、すべての工程で定められたルールに基づいた厳重な取り扱い、万全なセキュリティ対策を実施。個人情報の適切な保護措置を講じている企業として、プライバシーマークの使用を認められています。

● 情報に命を吹き込む

たいせつなデータをデジタル資産としてデータベース化。さまざまな方法を用いたデータベースパブリッシングを展開しています。また、ひとつのデータを目的ごとに異なるメディアへの活用、One to One マーケティングをサポートするオンデマンドサービス、バリアブルプリントなど、独自のシステムでさまざまなニーズに対応しています。



おかげさまで創業60周年

野毛印刷

プライバシーマーク使用認定
ISO 14001 9001 認証取得

営業企画本部／横浜市南区新川町 1-2 〒232-0027

☎(045)252-2511

<http://www.noge.co.jp>

馬車道グラフィックサポート アトラス ☎(045)641-4132

momonoge.com あなたの本づくりをサポートします。

「日本自費出版ネットワーク」の会員である野毛印刷の自費出版サービスが「momonoge.com」です。企画から編集、印刷、造本、流通に至るまで、プライベートな本づくりのすべてをお受けします。自分史、エッセイ集、詩集、画集、写真集、絵本、歌集、遺稿集…など、目的に応じてお受けいたします。なんなりとお気軽にご相談ください。

The 44th Kanagawa Art Exhibition 2008
第44回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業課内

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL. 045-662-5901(代)

写真撮影：(株)菊屋写真工房

印刷：(株)野毛印刷社

発行：2008年9月10日



第44回神奈川県美術展で
使用する電力のうち
2000kwhを風力発電に
よる自然エネルギーで
まかっています。

神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県